

温州みかんの 浮皮軽減に

住友ジベレリン液剤

ジベレリン液剤 農林水産省登録 第24260号

ジベレリンとプロヒドロジャスモンとの
混用散布により、果皮の老化を抑え、
浮皮を軽減します。

■適用表(抜粋)

(2021年4月現在)

作物名	使用目的	使用濃度	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	ジベレリンを含む 農薬の使用回数
温州みかん	浮皮軽減	ジベレリン 1～5ppm	100～ 400L/10a	収穫予定日の3ヶ月前 ただし、収穫45日前まで	1回	果実散布 (プロヒドロジャスモン 1000～2000倍液に加用) ※1	3回以内 ※2

貯蔵・樹上完熟みかん以外の作型にもお使いいただけます。

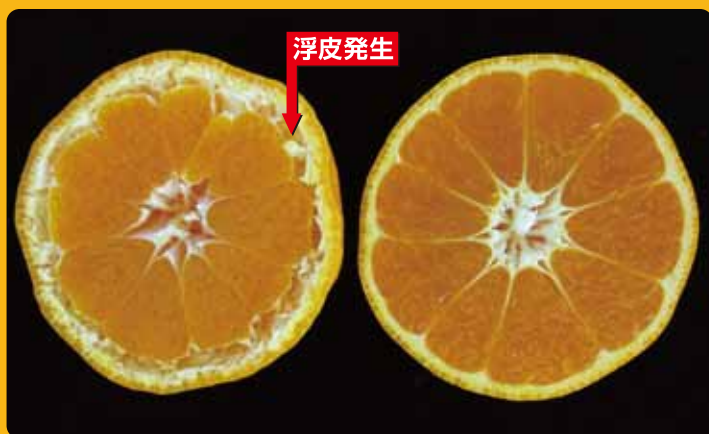
※1 プロヒドロジャスモン5%液剤

※2 浮皮軽減目的での使用は1回以内(再処理は不可)

浮皮軽減効果

無処理区

処理区



(独)農研機構・果樹研究所・生駒上席研究員提供(2010年)

収穫時の状態

無処理区

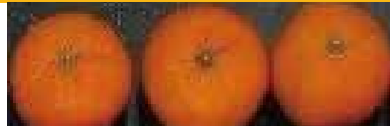


処理区



貯蔵後の状態

無処理区



処理区



徳島県立農林水産総合技術支援センター 果樹研究所(2010年)

■処理方法のポイント

☆使用濃度の目安

- ・貯蔵用または樹上完熟用の温州みかんでは、ジベレリン濃度の目安は約3.3ppm。
- ・貯蔵しない、あるいは貯蔵期間が短い温州みかんでは、ジベレリン濃度の目安は1～約3.3ppm。
(収穫期分散を目的とする場合は、上記に含む)
- それぞれプロヒドロジャスモン5%液剤 2000倍(プロヒドロジャスモン25ppmに相当)を
目安に加用する。

☆使用液量の目安 300～400L/10a

☆散布方法

- ・果実全体が濡れるように散布する。
- ・フトコロ・スノ部の果実には処理しない。
(過度な着色遅延が発生する可能性が高いため)

☆処理時期の目安

- ・十分な浮皮軽減効果を期待する場合は、9月上中旬。
ただし、出荷まで着色遅延の回復を待つ必要があります。
- ・浮皮軽減効果を期待するが、着色遅延を1週間程度に抑制したい場合は、
8月中旬～9月初め。



1本:40mL (ジベレリン200mg) 1本:100mL (ジベレリン500mg)

●性状:淡黄色ないし淡褐色の液体

■薬液の調製法 本剤は、下記の表に従って所定量の水に希釈すれば希望濃度の水溶液を作ることができます。

包装容量	ジベレリン濃度	1ppm	2ppm	2.5ppm	5ppm
40mLの場合(ジベレリン200mg)		200L	100L	80L	40L
100mLの場合(ジベレリン500mg)		500L	250L	200L	100L

薬液は使用の都度調製し、なるべく当日中に使い切ってください。溶解後放置すると効力が低下することがあります。

■浮皮軽減効果試験(1) 処理:ジベレリン3.3ppm+プロヒドロジャスモン25ppm
場所:熊本県農業研究センター果樹研究所 品種:青島温州 8年生

	収穫時				貯蔵後			
	浮皮指数※ ¹⁾	着色歩合※ ¹⁾	糖度(%) ²⁾	クエン酸(g/100mg) ²⁾	浮皮指数※ ³⁾	着色歩合※ ³⁾	糖度(%) ⁴⁾	クエン酸(g/100mg) ⁴⁾
処理区	9.2	9.8	12.0	0.97	15.5	10.0	12.6	0.72
無処理区	25.9	9.9	11.4	0.85	40.7	10.0	12.0	0.66

処理日:2006年9月3日 調査日:1)2006年12月5日~7日 2)2006年12月7日 3)2007年2月5日~7日 4)2007年2月8日

浮皮指数※¹⁾:浮皮の程度を無(0)、軽(1)、中(2)、甚(3)に数値化し、次式[(1×軽の果数)+(2×中の果数)+(3×甚の果数)×100/(3×総調査果数)]で算出

着色歩合※¹⁾:着色前を0、完全着色を10とする「0~10」までの果実(果皮全体)に占める割合

■浮皮軽減効果試験(2) 処理:ジベレリン1ppm+プロヒドロジャスモン25ppm
場所:山口県柑きつ振興センター 品種:南柑20号 23年生

	浮皮率(%)	着色(完着)(%)
処理区	13.2	100.0
無処理区	31.4	100.0

処理日:2012年9月13日 収穫日:2012年11月27日 調査日:2012年12月27日
触感により浮皮の程度を無(0)、軽(1)、中(2)、甚(3)に数値化し、浮皮率を算出

浮皮率(%) = $\frac{(\text{浮皮程度軽果数} \times 1) + (\text{浮皮程度中果数} \times 2) + (\text{浮皮程度甚果数} \times 3)}{\text{調査果数} \times 3} \times 100$

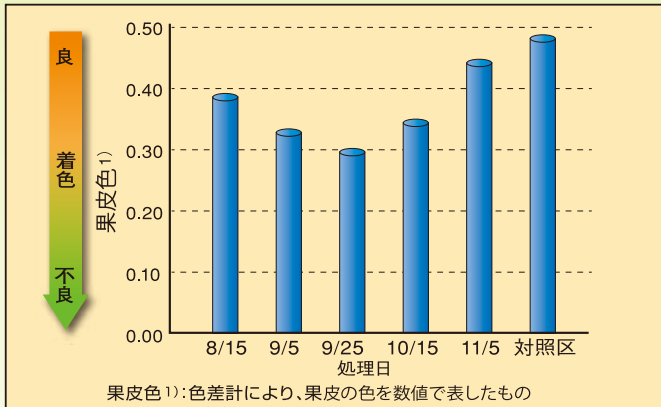
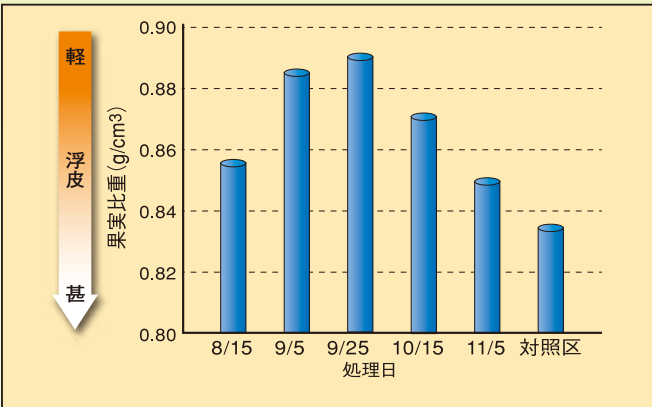
■散布時期と浮皮・着色との関係

8~11月にかけて時期別にジベレリンとプロヒドロジャスモンの混用散布を行った結果、9月の散布で浮皮軽減効果が高く、それに伴う着色遅延も顕著になることを観察しました。それより、早い時期(8月)や遅い時期(10、11月)に散布した場合には、浮皮軽減効果が劣る反面、着色遅延は緩和される傾向にあります。

緑斑が残る場合がありますが、大部分は貯蔵中に軽減し、解消される傾向があります。



温州みかん緑斑、協和発酵バイオ株式会社(2012年)



果皮色1): 色差計により、果皮の色を数値で表したもの

出典: 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構「浮皮軽減のための技術情報(改訂版)」より
処理: ジベレリン5ppm+プロヒドロジャスモン50ppm

品種: シルバーヒル温州
収穫・調査日: 2010年12月1日



処理によって、着色が若干遅れる傾向があります。

使用上の 注意事項 (抜粋)

1. 本剤処理により着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によって使用濃度を調整してください。
2. 本剤処理により薬斑が残ることがあるため、使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
3. プロヒドロジャスモン剤の注意事項を厳守してください。
4. 他の薬剤との混用散布はさけてください。
5. 高温時、乾燥時の散布はさけてください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

